

北見工業大学学報

第 285 号 (2018 年 1 月号)

目 次

年 頭 挨 拶	平成 30 年学長年頭挨拶……………	3
入 試	平成 30 年度編入学試験(第 2 次募集)の実施……………	5
	平成 30 年度推薦入試の実施……………	5
	平成 30 年度モンゴル科学技術大学 ツイニング・プログラム入試の実施……………	6
	平成 30 年度大学入試センター試験の実施……………	6
	平成 30 年度ハノイ工科大学 ツイニング・プログラム入試の実施……………	6
研 究 助 成	平成 29 年度共同研究の受入状況……………	7
	平成 29 年度受託研究の受入状況……………	8
	平成 29 年度奨学寄附金の受入状況……………	8
受 賞	本学大学院生と川尻峻三助教が第 52 回地盤工学研究 発表会において優秀論文発表者賞を受賞……………	9
	本学大学院生が土木学会第 72 回全国大会優秀講演者賞を受賞……………	10
	本学大学院生が 2017 年度 JC-IGS 論文奨励賞を受賞……………	11
	本学大学院生が DHIP2017 outstanding poster award を受賞……………	12
	本学大学院生が化学系学協会北海道支部 2018 年冬季研究発表会優秀講演賞(口頭部門)を受賞……………	13
諸 報	JST 新技術説明会での研究成果発表……………	14
	障がい者就労支援講演会を開催……………	15
	高大連携事業「研究室訪問」を実施……………	16
	冬休み親子工作教室を開催……………	17
	小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施……………	18

	人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催……………	19
	札幌モーターショー2018 で技術展示……………	20
	3 大学合同セミナーin 帯広畜産大学に参加……………	21
目 誌	12 月・1 月……………	22

= 年頭挨拶 =

平成30年学長年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、教職員の皆様へ、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は学部改組を行い、伝統的工学分野に基づいた学科構成を転換し、幅広い工学基礎知識と地域からグローバルに亘る多様な問題解決に取り組む能力を身につけた技術者養成を目指す2学科体制をスタートさせました。この改組にあたりましては、教職員の皆様に多大なご協力をいただいたところであります。この場をお借りして御礼申し上げます。

次に、平成30年度の国立大学に係る予算につきましてご報告いたします。平成30年度予算については、文部科学省に配分された運営費交付金等の総額は前年度と同額となりましたが、「基盤的設備等整備分」はゼロ査定となっております。これにより、本学が要求し財務省との協議事項となっていた「3次元設計解析システムを基盤とする工学教育研究の高度化」の予算配分も行われぬ見込みであり、厳しい結果となりました。

一方、学長のリーダーシップによるガバナンスを強化し、学長裁量経費とマッチングすることで、外部人材登用等による経営力の強化、教育研究の質の向上や、イノベーション創出等、エビデンスに基づくスピード感ある改革を実行する大学の取り組みを支援する「国立大学経営改革促進事業」（40億円）が新たに措置され、ますます改革が求められる予算編成となっております。

なお、本学に配分される予算の詳細については、現在のところ文部科学省から

の内示がされておられませんので、内示があり次第、皆様にお知らせいたします。

すでに全学説明会等でお知らせしておりますとおり、概算要求については、第2期までのプロジェクトごとの要求から、第3期は戦略ごとの要求に変わりました。

また、戦略ごとに評価が行われ、運営費交付金の配分額に反映される仕組みが新たに導入され、評価結果に基づき、翌年度の運営費交付金配分額における機能強化経費が110%から70%の範囲で増減されることとなっております。

評価結果は広く社会に公表されるため、各国立大学には教育、研究、社会貢献の成果を国民に分かりやすく示すことが求められています。

平成30年度運営費交付金の重点支援に係る本学の評価結果について、総合評価がまだ届いておりませんが、昨年度の評価では、評価項目のうちB評価だった項目が約21%ありましたが、昨年1月に全学メールで皆様にお知らせし、お約束したとおり、1年間かけて具体的なデータを集め、機能強化の具体的な方策を検討し改善を行った結果、今回の評価では80個の評価項目で全てA評価となりました。道内で本学と同じく地域貢献の枠組みを選択した6大学のうち、全てA評価であった大学は本学のみであったと聞いております。全国立大学の評価結果は今月中旬ごろ公表される予定です。

本評価を受けるにあたり、戦略の取り組みの実施や、調書作成等にご協力いただいた教職員の皆様に御礼申し上げます。

す。

施設整備関係では、昨年9月、長年に渡り要求していた機械工学科1号棟の改修工事が終了いたしました。また、屋外通用階段の防雪アーケードの設置についても、昨年11月に設置が完了し、冬期間における通学・通勤の安全が確保されたところであります。

また、新年度に向けては、文部科学省に平成30年度施設整備費として要求しておりました、基幹・環境整備事業として、道路等整備の予算の内示がございました。

1月13日、14日には大学入試センター試験が実施されます。監督等に当たっていただく教職員の皆様には何かとご面倒をおかけしますが、どうぞ遺漏のないよう、よろしくお願い申し上げます。

また、3月12日に後期日程試験の個別学力検査が行われます。個別学力検査の試験会場としましては、前回と同様に、北見以外でも、東京と大阪で実施することとしています。こちらにつきましても、

多くの教職員の皆様にご協力をいただくこととなります。どうぞ事故等のないように万全を期していただきますよう、お願い申し上げます。

その他の話題では、この2月に開催される平昌五輪の男女カーリング競技に、本学の卒業・修了生が出場する予定です。男子では、平成28年度に情報システム工学専攻を修了した、SC軽井沢クラブに所属する平田洸介さん、女子では、平成25年度にバイオ環境化学科を卒業した、LS北見に所属する鈴木夕湖さんが、それぞれ日本代表に内定しております。また、昨年12月に開催された、五輪の前哨戦といわれる軽井沢国際カーリング選手権大会においても両チームが優勝しており、メダル獲得の期待も高まっており、健闘を期待するところであります。

最後になりますが、教職員の皆様のご家族ともども、この1年間、心身ともに健やかに暮らせる年であることを心から祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

学長 高橋 信夫

= 入試 =

平成 30 年度編入学試験（第 2 次募集）の実施

（入 試 課）

平成 30 年度編入学試験（第 2 次募集）を実施し、12 月 13 日（水）に合格発表を行いました。
各学科別の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	推薦入試				学力試験入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	6	1	1	1	若干人	1	0	0
社会環境工学科		1	1	1		0	0	0
電気電子工学科		0	0	0		2	2	2
情報システム工学科		2	2	2		1	1	1
バイオ環境化学科		0	0	0		1	1	1
マテリアル工学科		0	0	0		0	0	0
合 計		6	4	4		4	5	4

平成 30 年度推薦入試の実施

（入 試 課）

12 月 1 日（金）、平成 30 年度推薦入試を実施し、12 月 13 日（水）に合格発表を行いました。両
学科の合格者数等については下表のとおりです。

学科・コース		募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	エネルギー総合工学コース	48	76	76	49
	環境防災工学コース				
	先端材料物質工学コース				
	地域マネジメント工学コース		1	1	1
地域未来デザイン 工学科	機械知能・生体工学コース	55	109	109	60
	情報デザイン・コミュニケー ション工学コース				
	社会インフラ工学コース				
	バイオ食品工学コース				
	地域マネジメント工学コース		4	4	4
合 計		103	190	190	114

平成 30 年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試の実施

(入 試 課)

平成 30 年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試を実施し、12 月 13 日（水）に合格発表を行いました。各学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	合格者
機 械 工 学 科	若干人	5	3
社 会 環 境 工 学 科		10	7
合 計		15	10

平成 30 年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

平成 30 年度大学入試センター試験が 1 月 13 日（土）、14 日（日）の両日に実施されました。本学会場の志願者数は 686 人となりました。

平成 30 年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試の実施

(入 試 課)

平成 30 年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試を実施し、1 月 23 日（火）に合格発表を行いました。合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	合格者
機 械 工 学 科	若干人	4	0
合 計		4	0

平成29年度共同研究の受入状況

平成30年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
地域未来デザイン工学科	准教授	小西 正朗	低温環境におけるメタン発酵消化液の効率処理法の開発	株式会社アクト
地球環境工学科	教授	村田 美樹	ハッカからの有効成分抽出法の開発と評価	株式会社北見ハッカ通商
地球環境工学科	教授	村田 美樹	ハッカ水蒸気蒸留残渣及び芳香蒸留水の利活用	株式会社北見ハッカ通商
地球環境工学科	教授	村田 美樹	人工光源による和種ハッカの育成	株式会社北見ハッカ通商
地球環境工学科	教授	羽二生 博之	遠赤外線空撮によるコンクリート表面温度計測手法の改良	株式会社豊水設計
地球環境工学科	准教授	川口 貴之	積雪寒冷地における屋根型路盤を有する林道の性能評価	鶴居村森林組合
地域未来デザイン工学科	准教授	小西 正朗	微生物消臭剤中の微生物群衆解析	株式会社環境デザイン
地域未来デザイン工学科	准教授	井上 真澄	温水循環式エアヒーターを用いたコンクリート給熱養生システムの構築	エクセン株式会社
地球環境工学科	准教授	武山 真弓	エゾシカの利活用および地産地消を目的としたレシピ開発	北見工業大学生協同組合
地域未来デザイン工学科	助教	酒井 大輔	透明海洋生物の光学特性の役割解明に関する研究	国立研究開発法人産業技術総合研究所／ 国立大学法人琉球大学／学校法人東海大学
地域未来デザイン工学科	助教	杉坂 純一郎	レーザ向けフォトニック結晶についての研究	株式会社東芝 生産技術センター 光技術研究部

平成29年度 累計94件

平成29年度受託研究の受入状況

平成30年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
地域未来デザイン工学科	教授	高橋 清	自動運転と道の駅を活用した生産空間を支える新たな道路 交通施策に関する研究開発	国立大学法人室蘭工業大学	円 2,086,086
地域未来デザイン工学科	准教授	原田 康浩	安全で効率的な航空機の冬季運航を目指した滑走路雪氷 モニタリングシステム技術の開発	国土交通省	735,000

平成29年度 累計12件

平成29年度奨学寄附金の受入状況

平成30年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
	学長	高橋 信夫	大学広報等への支援他	北見工業大学後援会	円 793,800
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援	北見工業大学後援会	500,000
地域未来デザイン工学科	助教	崔 希燮	「マイクロウェブを用いたコンクリート給熱養生システム の構築」に関する研究のため	オジュ産業株式会社	200,000
地球環境工学科	教授	大野 智也	平成29年度助成事業（研究助成）として 研究課題：「粒子の構造化による空気電池用二元機能触 媒の開発」	公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団	700,000
地域未来デザイン工学科	助教	吉川 泰弘	水力発電所における流氷雪検出技術に関する検討への指 導	北海道電力株式会社	500,000
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援	北見工業大学後援会	200,000
地域未来デザイン工学科	助教	邱 泰瑛	発酵食品由来有用乳酸菌に関する教育研究の奨励助成	株式会社A0B慧央グループ	1,500,000
地域未来デザイン工学科	特任助教	本間 雄二郎	平成29年度学術研究助成として 研究課題名：「種子デンプン質の代わりにショ糖が蓄積 される変異イネの解析による糖化処理不要なバイオリ ファイナリー作物開発を目指した基礎研究」	公益財団法人前川報恩会	700,000
	学長	高橋 信夫	教育研究のため	北見工業大学生生活協同組合	562,558

平成29年度 累計71件

= 受賞 =

本学大学院生と川尻峻三助教が 第 52 回地盤工学研究発表会において優秀論文発表者賞を受賞

(社会環境工学科)

2017年7月12日(水)～15日(土)に、愛知県名古屋国際会議場で開催された第52回地盤工学研究発表会において、本学大学院生である田中悠暉さん(博士前期課程社会環境工学専攻2年)と地球環境工学科川尻峻三助教の2名が優秀論文発表者賞を受賞しました。

本発表会は、公益社団法人地盤工学会が

開催している全国規模の学術講演会であり、「地盤工学会優秀論文発表者賞」は、今後の地盤工学分野を担う若手技術者及び若手研究者の活性化、研究意欲の向上を目的として設立された賞で、「地盤工学会の発展に貢献しうる優秀な論文を適切に口頭発表した」と認められた35歳以下の技術者及び研究者に贈られます。

受賞者及び発表タイトルは以下の通りです。

田中悠暉：記録的降雨および融雪水の影響を受けた盛土の崩壊限界雨量による評価

川尻峻三：記録的降雨によって河川堤防で発生した噴砂に関する地盤調査



左から川尻助教、田中さん

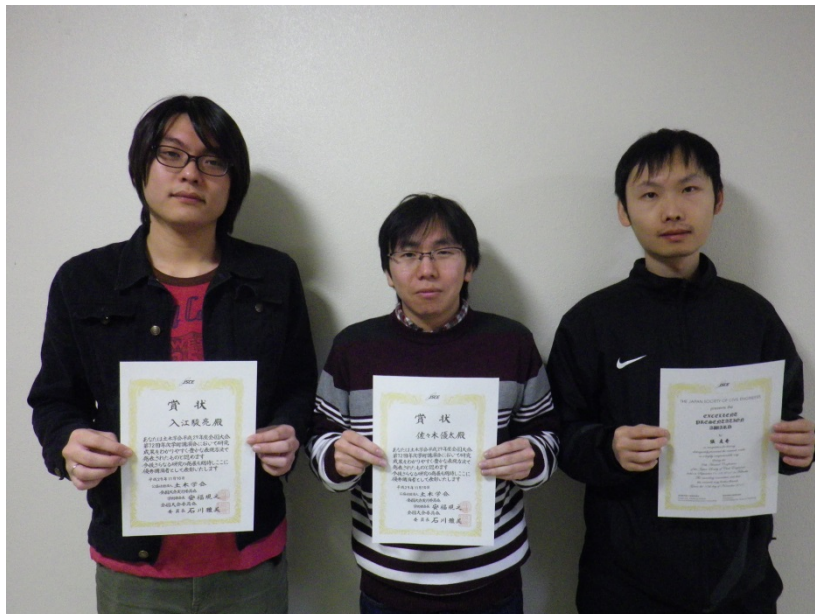
本学大学院生が土木学会第 72 回全国大会優秀講演者賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、本学大学院生である佐々木優太さん（博士前期課程 社会環境工学専攻 1 年、指導教員：高橋清教授）、ZHANG YOUQI さん（博士後期課程 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 1 年、指導教員：宮森保紀准教授）、入江駿亮さん（博士前期課程 社会環境工学専攻 1 年、指導教員：宮森保紀准教授）が公益社団法人土木学会 平成 29 年度全国大会第 72 回年次学術講演会において、優秀講演者賞を受賞しました。この賞は、今後の発展が期待される研究発表を

行った若手研究者・技術者に贈られるものです。

本講演会において、佐々木さんは「路面平坦性に着目した自転車走行環境の評価に関する研究」という題目で、ZHANG さんは「Study on Dynamic Characteristic Variations of a Ballasted Railway Bridge」という題目で、入江さんは「低温環境下におけるゴム支承の温度依存性に関する実験的研究」という題目で発表しました。



(左から) 入江さん、佐々木さん、ZHANG さん

本学大学院生が 2017 年度 JC-IGS 論文奨励賞を受賞

(社会環境工学科)

2017 年 11 月 30 日 (木)、本学大学院生である川俣さくらさん(博士前期課程 社会環境工学専攻 2 年)が、東京都で開催された第 32 回ジオシンセティックスシンポジウムにおいて 2017 年度 JC-IGS 論文奨励賞を受賞しました。

この賞は国際ジオシンセティックス学会日本支部が、2015 年と 2016 年の論文集に掲載された中から、将来、学術および技術

の進展に貢献が期待される論文の著者 (満 35 歳未満) に授与するものであります。

受賞した論文タイトルは「透水性断熱材を用いたギャビオン補強土壁の積雪寒冷環境における性能評価」であり、積雪寒冷環境特有の厳しい気候条件下でも十分な耐久性を発揮できる地盤構造物の研究開発に民間企業と共に取り組んだ結果が高く評価されたものです。



左から倉知禎直氏 (共同研究者)、川俣さん、川口貴之准教授、川尻峻三助教

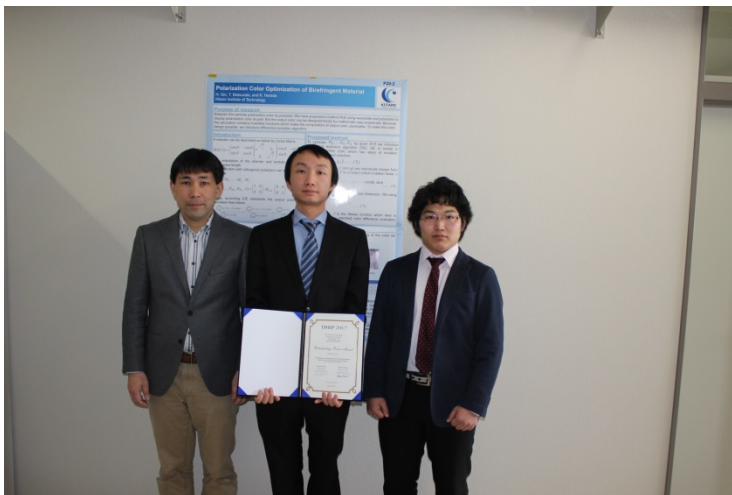
本学大学院生が DHIP2017 outstanding poster award を受賞

(情報システム工学科)

12月22日(金)、本学大学院生であるチンコウキさん(博士前期課程 情報システム工学専攻1年)が、韓国大邱で開催された第7回日韓ワークショップ DHIP2017(The 7th Korea-Japan Workshop on Digital Holography and Information Photonics)において DHIP2017 outstanding poster award を受賞しました。この賞は、卓越したポスター発表を行った若手研究者に贈られるものです。

受賞した論文タイトルは「Polarization color optimization of birefringent material」で、これは博士前期課程2年の松崎俊樹さんと、指導教員である原田建治教授と共著で学会発表したものです。

遺伝的アルゴリズムを用いた偏光色表示の最適化に関する発表であり、実際に偏光色カラーフィルター装置を発表において実演したことが高く評価されたものです。



(左から) 原田教授、チンさん、松崎さん



DHIP2017 outstanding poster award

本学大学院生が化学系学協会北海道支部 2018年冬季研究発表会優秀講演賞（口頭部門）を受賞

（バイオ環境化学科）

1月29日（月）、本学大学院生である藤森鴻平さん（博士前期課程 バイオ環境化学専攻2年、指導教員：齋藤徹教授）が化学系学協会北海道支部2018年冬季研究発表会（共催：日本分析化学会・触媒学会・腐食防食学会・日本化学会・電気化学会・石油学会・表面技術協会 各北海道支部）に

において、優秀講演賞（口頭部門）を受賞しました。

本研究発表会において、藤森さんは「バイオサーファクタントを用いる水中塩基性薬物の高効率・低環境負荷除去」という題目で発表しました。



JST 新技術説明会での研究成果発表

(社会連携推進センター)

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)は大学等の公的研究機関から創出された研究成果に基づく特許技術に焦点をあてた新技術説明会を開催しています。本説明会は、新技術や産学連携に関心のある企業関係者に向け、大学や公的研究機関等の研究者が研究成果について説明し、成果の実用化に向けて広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る場です。

12月7日(木)にJSTと北海道大学産学・地域協働推進機構が主催し、北海道内の大学・公的研究機関が研究を紹介する新技術説明会がJST東京本部別館1Fホールで開催され、本学も後援機関として参画しました。

今回の説明会は「ものづくり系」がテーマになっており、大学関係者、産学官連携支援機関、産業界から100人近くの来場が

ありました。

本学からは2人が参加し、地球環境工学科 大津直史准教授による「超弾性NiTi合金にNiを含まない表層を常温形成できる表面処理」と地域未来デザイン工学科 杉坂純一郎助教による「準結晶ホログラムを用いた微細加工装置の簡素化とさらなる高精度化」について説明しました。プレゼンテーションの後には、研究の成果に興味を持つ企業の方々と各先生方との個別相談が行われ、さらに深い技術や共同研究の可能性等について話し合いが行われました。

新技術説明会は、発表者の研究力向上に繋がる貴重なネットワーク形成の機会であり、また今後の研究・産学官連携の発展に向けた有意義な広報・情報交換の機会でもあります。今後も積極的な参加・発表の継続を考えています。



発表を行う大津准教授(左)と杉坂助教(右)



会場の様子

障がい者就労支援講演会を開催

(学務課学生支援室)

12月13日（水）に第一総合研究棟多目的講義室において、社会福祉法人川東の里オホーツク障がい者就業・生活支援センターあおぞらセンター長 天羽仁氏を講師に迎え、「障がい者就労支援講演会」を開催しました。

本講演会は、平成28年4月1日の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行に伴い、障害を理由とする差別に関する基本的な事項、責務、役割及び障害特性の理解を促し、障がい学生等へ適切に対応するための意識啓発と、大学卒業後の就職支援方法の理解を目的に、教職員のFD・SD研修の一貫として企画されたもので、60

人余りの教職員が参加しました。

講演では、天羽氏から、「障がい者雇用は確実に増えていること」や「支援が必要で障がい者手帳を持っていない場合の対応が難しいこと」など、長年、障がい者就労支援に携わった経験を踏まえた感想や、対応事例を交えた具体的で分かりやすい説明に、参加者は真剣に耳を傾けていました。

また、大学での事例に関する質問には、「選択肢を提示し、本人が決めることが重要」といった適確な回答があり、学生支援を行う上で大変参考になったとの感想が多く寄せられました。



講演する天羽氏

高大連携事業「研究室訪問」を実施

(学 務 課)

12月22日（金）、遠軽高校の生徒8人が本学を訪問し、本学での学びを体験しました。

本学は、北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定を締結しており、本学と遠軽高校が連携することにより高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に平成25年度に締結したものです。

本学を訪問した遠軽高校生は、本学地球環境工学科 中村大准教授から開水路実験の説明を受けた後、実験に必要な盛土を本学学生と一緒に作製しました。午後からは、実験室ではなく屋外で行っている実験や、

高校にはない設備で行っている実験の説明を受け、本学で行っている様々な研究に驚きながらも、とても興味深そうに見学していました。また、お昼休みも本学の学生と一緒に学生食堂で過ごし、大学生活を満喫していました。

遠軽高校生からは、「大学生の楽しそうな雰囲気を知ることができた」「実際にやっている詳しい研究内容を知ることができて良かった」「進路について考えを深めるいい体験ができた」などの感想が聞かれ、充実した1日となった様子でした。



盛土の作製



屋外実験の説明

冬休み親子工作教室を開催

(技 術 部)

1月8日(月)～10日(水)の3日間、技術部の恒例事業となりました冬休み親子工作教室を、ものづくり工房を主会場として実施いたしました。

前年度は申込者が多く、今年度は受入人数を1.5倍に増やしましたが、それでも受入人数を超過し、抽選せざるを得ませんでした。興味を持って申し込まれた皆さまに深くお詫び申し上げます。

実施テーマは①ガラス彫刻、②アクセサリタワー(今回新規のテーマです)、③自分だけの宝箱、④ラジオ製作の4テーマで、子供たちよりも保護者が熱中して製作する

場面も見られました。約3時間にもわたる長丁場にもかかわらず、「子供がすごく夢中になっていて、出来た時のうれしそうな顔がとても良かったです」、「我が子がこんなに真剣にする姿に驚きました」との保護者の声がありました。

実施後の児童からのアンケートでは、とても楽しかった(90%)、楽しかった(10%)、保護者からは、参加してとても良かった(100%)、と好評のうちに終えることができました。

実施にあたりご協力頂きました各位に深く感謝申し上げます。



ガラス彫刻



自分だけの宝箱



アクセサリタワー



ラジオ製作

小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施

(研究協力課)

1月10日(水)、北見市教育委員会との連携事業として、昨年に引き続き、小中学校教諭を対象とした理科実験研修を本学物理実験室及び化学学生実験室において実施しました。

この事業は、公益社団法人応用物理学会北海道支部から「教諭向け理科教育支援事業」としても御支援いただいております。当日は学会担当で、地域未来デザイン工学科の酒井大輔助教も参加しました。

研修では、本学技術部の職員6人が講師となり、電気コースと化学コースに分かれて指導を行いました。

電気コースでは、①手回し発電機に関する実験、②モーターと発電機に関する実験、③エネルギーの変換に関する実験を行い、化学コースでは、①水溶液の性質、②水の電気分解、③電解質水溶液の

電気分解について実験を行いました。

当日は、北見市内の小中学校教諭3人、中学校教諭8人が参加し、150分の時間内では足りないほど、熱心に取り組んでいました。

研修後のアンケートでは、「手回し発電機の実験の仕方が実際の授業で使えそうで良かったです。」「実験について議論する時間があり、それぞれについて深く考える機会となつてとても良かったです。」「硫酸銅の処理。用具の工夫(目薬の容器?)は目からウロコでした。」「廃液の処理、実験器具の紹介等、大変参考になりました。」などの声が寄せられました。

今後も、地域の理科教育への支援として、内容を改善しつつこの事業を継続していきたいと考えています。



電気コースの実験



化学コースの実験

人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催

(社会連携推進センター)

1月10日(水)～15日(月)の6日間、コミュニティプラザパラボ(北見)を会場に人材育成事業北見地区成果報告「地域を彩る食物語(大学からの発信「こだわりのあるおいしいもの」販売!!)」を開催しました。

北見市産学官連携推進協議会が主催、本学も共催機関として実施しました。本イベントは、北見市と姉妹都市締結をしている高知市の「高知物産展」と同時開催され、今年で9年目を迎えました。

今回は長崎大学、帯広畜産大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学、本学の5大学とオホーツク地域振興機構、北見市雇用創造協議会の2機関が参加しました。会場では、各大学が取り組む商品開発の成果発表として、開発した商品の試食・販売や研究紹介のパネル展示が行われました。また、帯広畜産大学と本学からは、具体的な商品開発に係る資料による発表も行い、

大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを地域の多くの方々に理解していただく良い機会となりました。

本学は農業地帯にある工業大学という利点を活かし取り組んでいる、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエイター育成事業の成果を報告しました。初日には、日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター長の根本昌宏教授による「食の宝庫北海道が放つ『北の災害食レシピ』」の講演と情報交換会が行われ、大学間の交流を深める場となりました。

本イベントは、参加大学・機関とともに「食と健康」「人材育成」をキーワードとする地域おこしの意識を広く共有し、それぞれの活動を今後も発展させられる場として継続していく考えです。



パネル展示の様子



プレゼンテーションの様子

札幌モーターショー2018 で技術展示

(社会連携推進センター)

1月19日(金)～21日(日)の3日間、札幌ドームを会場に札幌モーターショー2018が開催されました。札幌モーターショーは2012年から隔年で開催されており、本学は初回から「北海道自動車産業ゾーン」に出展しています。

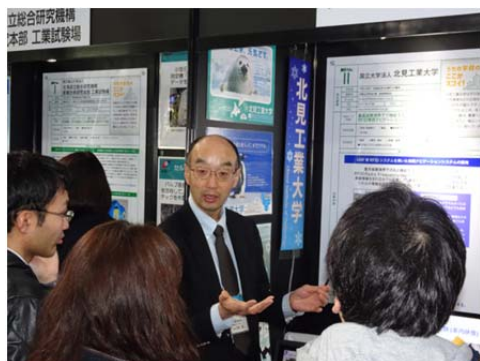
北海道自動車産業ゾーンは、北海道と独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部が主催となり、北海道の自動車関連企業・団体の技術を紹介することを目的に開催されています。今回は、大学機関から北海道大学、本学の2大学、そして公的試験研究機関や北海道内企業の全18ブースにおいて、それぞれが取り組む自動車関連技術が紹介されました。学生の手がけたハンドメイドエコカーの展示や寒冷地仕様のEVカーなどの道内企業が創る次世代自動車の展示も行われました。会場には、3日間で9万5千人以上が来場し、北海道自動車産業ゾーンにも多くの方が訪れました。

本学は、地域未来デザイン工学科 川村武准教授が取り組む「暴風雪悪視界下で機能するRFID車両ナビゲーションシステム」の

研究紹介と大学紹介の展示を行いました。現地では川村准教授と大学院電気電子工学専攻修士1年の菊野亮人さんが来場者に研究についての説明を行いました。ブースには来場者が絶え間なく訪れ、注目されている自動運転技術に関連する本技術に興味を示す方は非常に多く、熱心に質問をする来場者の姿も見られました。

本技術はイベント終了後テレビでも紹介され、注目の高さが伺えるものとなりました。また、北海道が製造業における女性の参画促進を目的に展開した、「ものづくりなでしこ応援プロジェクト」の女性に焦点をあてたパネル展示には、本学から大学院電気電子工学専攻博士1年 多田稀美子さんを紹介しました。

本学のブースには、自動車の技術に興味を持つ企業の方はもちろんのこと、同窓生や在校生、在校生の父兄、さらには、大学受験を控える高校生とそのご家族も訪れ、本学の教育や研究状況について知っていただくなど、技術広報だけでなく大学広報としても価値の高い場となりました。



札幌モーターショー2018での技術展示



ものづくりなでしこパネルの展示

3 大学合同セミナー in 帯広畜産大学に参加

(社会連携推進センター)

1月20日(土)・21日(日)の2日間、帯広畜産大学地域連携推進センターにおいて、北見工業大学、帯広畜産大学、東京農業大学による3大学合同セミナーが開催されました。

本セミナーは国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「地域再生人材創出拠点の形成」事業から続けている人材育成事業の一環として毎年開かれています。今年度は帯広市と帯広畜産大学が主催となり、各大学から15人が参加しました。本学からは「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」の受講生2人を含む学生3人と、事業スタッフ2人が参加しました。

セミナーでは、豊頃町にある株式会社ELEZO(エレゾ)社のケース分析を通じた意見交換を行い、参加者には事前にエレゾ社

の企業情報が提供され、会社や外部環境について各自分析を行いました。初日は各自の分析結果や戦略についてグループ討議を行い、その後の交流会では各大学の取り組みについての紹介が行われました。2日目はグループごとに分析結果をまとめたプレゼンテーションが行われ、エレゾ社の代表取締役社長 佐々木章太氏との意見交換も行われ、会社の仕組みや市場について学ぶ貴重な機会となりました。

本セミナーは、他地域とのネットワークを構築し、社会の仕組みについて学ぶ効果的な場として重要な役割を担っています。今後も、3大学での情報交換やスタッフ・学生の交流など、継続的な活動を行っていきます。



3 大学合同セミナーの様子

= 日誌 =

12 月

- 1日 推薦入試
- 4日 社会連携推進センター運営会議、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5日 研究推進機構統括会議、内定者のための労働法と税のセミナー
- 7日 iThenticate利用説明会、JST新技術説明会
- 8日 教務委員会、就職ガイダンス
- 12日 入学者選抜委員会
- 13日 教授会、研究科委員会、不正防止対策室会議、推薦入試合格発表、編入学（第2次募集）合格発表、モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試合格発表
- 14日 教育研究評議会、広報委員会、広報誌編集委員会、障がい者就労支援のFD研修
- 15日 学長選考会議、役員会、発明審査委員会
- 21日 社会連携推進機構統括会議、地域連携・国際交流委員会
- 22日 共用設備センター運営会議、高大連携事業「研究室訪問」、新聞読み方講座
- 27日 教育IT支援室会議

1 月

- 9日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 10日 地域を彩る食物語（～15日）
- 11日 研究推進機構統括会議、教務委員会、TAのFD研修
- 12日 社会連携推進センター運営会議
- 13日 大学入試センター試験（～14日）
- 15日 推薦入試入学手続（～19日）、私費外国人留学生入試出願受付（～19日）、大学院入試出願受付（～19日）
- 17日 教育研究評議会
- 18日 研究推進機構統括会議、発明審査委員会
- 19日 就職ガイダンス、札幌モーターショー2018（～21日）
- 20日 3大学合同セミナーin 帯広畜産大学（～21日）
- 22日 一般入試出願受付（～31日）
- 23日 ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試合格発表
- 24日 実践的教育プログラム外部評価委員会
- 30日 共用設備センター運営会議